

# 難関の応用情報技術者試験 県内高校生で唯一合格！（H25年度） 熊本県立球磨商業高等学校

球磨商業高等学校の情報処理科3年、山口祥司君（18歳）が、昨年10月に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。難関の国家試験とされ、平成25年度は県内から挑戦した高校生は3人で、山口君が唯一合格した。また、球磨商業高等学校では創立以来初めての快挙を成し遂げた。

応用情報技術者試験は、経済産業省が認定する国家試験で、情報処理技術者試験の難易度で2番目に難しいレベル3に該当する。コンピュータの専門知識やシステム開発や管理、経営やマネジメント等に関する実践的な能力が問われる試験で、IT系企業社員や大学生が主に受験する。実務や応用的な問題など、難易度が高く、高校生では受験する生徒自体が少ない。この資格を持っていると授業料を全額免除する大学や専門学校もある。

以前からコンピュータに興味があった山口君は、高校1年生の時からコンピュータ部と演劇部に所属していた。演劇部でも県大会優秀賞や舞台美術賞などを受賞しており、多方面で活躍している。コンピュータ部では1年生で全国商業高等学校協会主催の情報処理検定1級に合格（コンピュータ部以外の生徒は、2年生か3年生で受験する検定）。2年生で情報処理技術者試験レベル1のITパスポート試験に合格。3年生の春に情報処理技術者試験レベル2の基本情報技術者試験に合格した。6月に行われた熊本県情報処理競技大会では、個人の部で準優勝し、全国大会にも出場している。

高校入学時はコンピュータに関する専門的な知識はほとんどなかったが、授業だけではなく、部活動で他の生徒より早い段階で難問にチャレンジし、次々に知識をつけ伸びていった。「難しい問題にチャレンジすることや知らなかったことを学ぶのが面白い」と本人は言っている。

卒業後は、東京都の大手IT関連企業に就職が決定しており、「高校3年間、とても充実していて、この学校に入学して良かった。取得した資格が飾りにならないように、これまで培った知識を活かしながら仕事をしていきたい。そして就職先でも更に難しい資格に挑戦し、自分を磨いていきたい。」と話している。

